

平成 28 年度 天竜川上流水防連絡会（第 2 回） 上伊那地域 メモ

平成 28 年 8 月 3 日 16:00~17:00 伊那市役所 庁議室（4 階）

出席者：別紙のとおり

配付資料：資料-1~3

取材：伊那あいねっと（有線）、伊那ケーブルテレビ、新建新聞社

■ 質疑応答

宮田村) パートナーシップの取組みはユニーク。どのような段階にあるのか。

天竜川上流) 本年度はパートナーシップ協定の案を作成し、これに基づく避難訓練を行おうと地元調整を行ったところ、諸般の事情で来年度となった。徐々に進めていきたいと聞いている。全国的にもめずらしい取組みと思われる。

宮田村) 浸水想定区域図は決壊で計算するもの。狭窄部上流部の浸水はどう算定するのか。

天竜川上流) 狭窄部上流の堰上げ、堤防開口部からの浸水は現在公開中のものも、今後公開するものも計算上は表現されている。

箕輪町) 必要以上に危機意識を煽るのも効果的ではない。

天竜川上流) 住民目線で進めることもテーマとしており、スマホアプリなどもその趣旨で開発するもの。提供する情報の質や中味を充実させることで対応していきたい。河川管理者では難しい部分を連携でカバーしていくイメージだ。

駒ヶ根市) 最大想定 of 浸水区域はどのような算定としているのか。

天竜川上流) 当流域は全国を 15 のブロックに分けた「中部」に該当する。そのエリアでの 1/1000 相当であり、内陸部の当該地域では、おそらくもう少し確率の低いもの。

駒ヶ根市) 氾濫区域は複数破堤地点の包絡と思われるので、自宅地点の氾濫がどこかの破堤を想定しているのかなどの表現があるとよい。

天竜川上流) わかりやすさの表現については、工夫していきたい。

伊那市) 釜口水門や支川にあるダム連携を考えれば、もっと本川の洪水水位を低減できるのではないか。

天竜川上流) ダムでの取組みにも記載しているとおり、効果的な操作を考えていきたい。釜口水門の操作については上下流問題も行政組織という点でも関係機関連携の枠組みで取り組んでいきたい。